

れや書類の順番が違う、そういうものを事細かに不適合として挙げるところという数字になり、これは健全にISOを実践していることの証。

意見

ISOは確かに失敗や不適合を教訓に直していこうという思想で、検査の手引きや手順を決め、それに基づき記録を残す。しかし、東電がこの手法を採用するから良いでなく、一般の会社では普通にやっていること。

ISOは例えば品物を10個作るとそのうちの1個については製造方法や材料を検査し、基準どおりだから残り9個も合格という制度で、仮に不都合があれば、その原因を見極め、以後の改善に活かすという全体システムと理解。

福島第一と第二の事例から柏崎ではどのように是正するのか、多分しないと思う。再循環系配管の未点検箇所、シユラウドの検査対象外の箇所の問題、これらをきちんと調べるのか。きちんと調べることでISOの是正措置、そして、安心の担保になると思う。

しかし、この一年こういうことがどの程度やられたのか疑問であり、今日の説明の中にも何もないことが不満。



意見

不適合発見者が一番問題では。維持補修しているのは東電ではなく、外注先。1次外注先はISOをとっていると思うが、その下請けはどうか。末端の下請けがISOをとっていて、キチンと企業倫理委員会に報告しているのか。

意見

原発は安全で絶対事故はないということに誘致したが、今、その神話が崩れたわけである。この会の中でも、形式

は整ったという話が出ていますが、人間がそれを組織しているのだから、人間のエラーに起因する問題が再び出てくるのでは。形式は整ってもそこに魂を入れるのは人間であり、常に疑問はついて回る。

意見

品質保証や品質管理が劣っていたからトラブル隠しが起きたのではないことは、皆さんの発言から理解できる。では何故起きたかを考えていただきたい。どんなに多くの手引書があり、全てそのとおりに行ったからといって安全・安心にならないというところが、ひび割れ、トラブルの発生ということなのではないか。人為的なミスというものを常に考えて頂きたい。

Q

報告書中、発見日時に日にちはあるが時間の記入がないが。また、手書きの記録を後に活字に直したもののなか。

A

(東電) 時間は必要な時には入れる。報告書は、作成者から端末から直接打ち込む。全ての所員がアクセスできるようになっている。

● **東電の感想**

当たり前前のことを何で今頃との指摘があったが、自分達は発電所内のマニュアルに従うことで品質保証ができていたとおごりがあつたように思う。今回、基準点を外に置き、国際的に認知された基準に適合するものを作り直していこうと動いている。東電はまだ公式的にはISO取得宣言はしていなく、社員の精神を含めた社内での整備を行っているところ。

ISO取得に越したことはないが、それで安全・安心が達成できるものではないとの指摘があつたが、継続的な改善の仕組みを整備することがISOに適合したシステムと思うので、その継続的な改善を続けながら長い時間がかかると思うが、安全・安心を届けることができると思つている。

仕組みを作っても、そこで切り捨て、つぶしたりすることのないよう、とのご意見も頂戴したが、その通りだと思つている。ご意見を肝に銘じ、対処していきたい。貴重なご意見を頂きありがとうございます。